

お客様の自宅拝見！



薄紅の情景

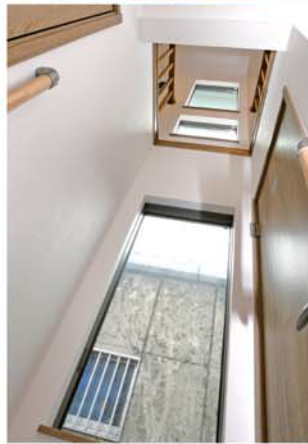
浜松市中区 A様邸

浜松市街の喧騒を背に歩を進めビル群を抜けると、突然の様に閑静な住宅地が広がります。転勤生活が長かったA様が、生まれ育ったこの地で、「家族との時間を穏やかに過ごせるように」との想いで建築した住まいです。さて、どんな住まいに仕上がったのでしょうか。

隣接する神社の丹塗りを背景に、その白さを際立たせる外壁、エントランス下屋からバルコニーへ連続する大型ファサードが印象的なA様邸の外観です。

ご主人にご案内いただき、大きめのシューズキャビネットを備えた約4帖の玄関ホールを抜けると、リビング兼ご主人のワークスペースが広がります。テラス越しに季節の花々が望め、柔らかかに差し込む日差しと相まって、ゆったりした時間を過ごす空間に仕上がっています。

続くダイニングキッチン、広めに確保したキッチンスペースと窓からの明かりが一面に差し込むダイニングスペースとのバランスが絶妙で、こちらも穏やかな空間に仕上がっています。また、トイレ前の廊下に吹抜けを設置していることも注目ポイントです。これにより、この住まいで最も暗くなる場所を光の通り道に変えています。まさに「全てのスペースで採光と風通しにこだわった」という、A様のプラン構想の絶妙さが伺われます。



採光と風通しにこだわった吹抜け

今回の住まい作りの思い出をお聞きすると、「プラン決定は苦労しました。(2×4住宅の)ルールや制約がわかると、『ここ収納スペースになるかも』とか『この壁、こっちに移せるかも』とか色々考え込んでしまっって・・・」とご主人。「何かパズルをやっているように間取りを組替えて楽しんでいるみたいでしたよ(笑)。私は壁材など素材選びには苦労しました。サンプルではわからないので、その都度、モデルハウスを見に行ったり、知人の家を見学したりと大変でした。今振り返るとそのプロセスは本当に楽しい時間でした」と奥様。

新築されて変化したことを伺うと「家庭菜園を始めました。転勤暮らしの時は自由になる庭がありませんでしたから…。去年の秋はさつまいもが大収穫でした。今度は何を育てよう



玄関ホール



ダイニングキッチン

かと楽しみです」と奥様。

「少しずつ庭木を増やしています。これから季節の花が咲くのが楽しみです。」とご主人。取材時は、エントランスにハナカイドウ、菜園周りにピンク色の椿、フェンスにはこれから開花を待つバラの蔓。そして、ご主人の最もお気に入りの場所、吹抜けを囲む二階ホールからは、近接する神社の桜の古木が借景として望めました。

ピンクの椿の花言葉は、「控えめな美」だそうです。過度な主張を抑え、端正で美しいA様邸そのものです。美しいのは邸宅だけではありません。家の中に陰を作らぬよう腐心されたご主人の優しさ、取材中何度もコーヒーの濃さを気にかけていただいた奥様の気遣い。そんなあたたかな家族の姿が、彩色豊かに咲き誇る花木と共にありました。

